

～「ゴミ減量・リサイクル回収取組について」～
イオンリテール株式会社中四国カンパニー 人事総務部 前川 裕

1 重点課題

イオングループでは、「低炭素社会の実現」、「生物多様性の保全」、「資源の有効利用」、「社会的課題への対応」の4つの重点課題を、店舗で、商品で、お客さまと共に取り組んでいる。

「低炭素社会の実現」については、店舗照明のLED化による使用エネルギー削減や太陽光パネル設置等による再生可能エネルギー創出促進を行うとともに、「生物多様性の保全」については、MSC認証（海のエコラベル）等各種認証商品の販売や累計1千万本を超える植樹活動を行っている。

残りの「資源の有効利用」と「社会的課題への対応」について、ここで説明する。

2 資源の有効利用

(1) 店舗での取り組み

ア レジ袋削減の取組

1991年から買い物袋持参運動を開始し、2013年11月1日から全国の食品フロアでレジ袋無料配布を中止して、収益金を地域の環境保全活動に寄付している。

市内3店舗の買い物袋持参率は84.6%で、今後も買い物袋の持参を呼びかけていきたい。

イ 店頭リサイクル回収

紙パック、食品トレイ、アルミ缶、ペットボトルを店頭回収し、再資源化して、一部をプライベートブランド「トップバリュ」の原料に活用している。市内3店舗の昨年の年間回収量は約3万3千kgである。お客さまにWAONポイントを付与する古紙回収も実施している。

(2) 商品での取り組み

ア 包装資材の削減

「トップバリュ」では、バターロールの留め具をなくし袋を短くして、包装資材を一般品の半分に削減するとともに、ティッシュペーパーの外箱を省くことでごみが出ないようにした。

イ 食品廃棄物の削減・有効利用

ISO14001の全社目標として、廃棄売変率（廃棄売変額／売上額）の削減を掲げ、個店では、試食等による売り切り、鮮度劣化商品の抜き取りなどを行っている。市内3店舗では、廃食油・魚アラを全量リサイクル、生ごみもリサイクル業者に委託し堆肥化している。

兵庫エリアでの取組であるが、2014年度にイオンアグリ創造株式会社が再資源化業者と食品リサイクルに関する協定を締結し、店舗、リサイクル業者、農場でイオン完結型のリサイクルループが構築できており、今後広島エリアでも構築できるよう努力していきたいと考えている。

フードバンク活動としては、マックスバリュ西日本株式会社で、2012年度から広島市の「あいあいねっと」への提供を開始している。

3 社会的課題への対応

(1) イオンチアーズクラブ

全国440クラブ、約7,900人の子ども達が、地域に根ざした環境プログラムに参加している。

(2) ペットボトルキャップ回収キャンペーン

2008年から開始し、市内3店舗の昨年度の実績は125万個、売却代金は2万円弱であった。